



CHAPTER 11

メンテナンス操作の実行

この章では、モビリティ サービス エンジン データのバックアップおよび復元方法とモビリティ サービス エンジン ソフトウェアの更新方法について説明します。また、その他のメンテナンス操作についても説明します。

この章は、次の内容で構成されています。

- 「ガイドラインと制限事項」 (P.11-1)
- 「失われたパスワードの復旧」 (P.11-1)
- 「失われたルート パスワードの回復」 (P.11-2)
- 「モビリティ サービス エンジン データのバックアップおよび復元」 (P.11-2)
- 「モビリティ サービス エンジンへのソフトウェアのダウンロード」 (P.11-4)
- 「NTP サーバの設定」 (P.11-6)
- 「システムのリセット」 (P.11-7)
- 「コンフィギュレーション ファイルの消去」 (P.11-7)

ガイドラインと制限事項

- パスワードを忘れないようにしてください。パスワードの変更は絶対に必要な場合にだけ行ってください。
- 紛失したルート パスワードを回復する際、単一ユーザ モード パスワードを設定する場合はシェル プロンプトは表示されません。

失われたパスワードの復旧

モビリティ サービス エンジンのパスワードを紛失または忘れた場合に回復するには、次の手順に従います。

- ステップ 1** [GRUB] ページが表示されたら、Esc を押してブート メニューに入ります。
- ステップ 2** e を押して編集します。
- ステップ 3** kernel で始まる行に移動し、e を押します。
行の最後に、スペースに続けて数字の 1 を入力します。Enter を押してこの変更を保存します。
- ステップ 4** b を押してブートを開始します。

ブート シーケンスの最後にシェル プロンプトが表示されます。

- ステップ 5 **passwd** コマンドを入力すると、ルート パスワードを変更できます。
- ステップ 6 新しいパスワードを入力して確定します。
- ステップ 7 マシンを再起動します。

失われたルート パスワードの回復

モビリティ サービス エンジンのルート パスワードを紛失または忘れた場合に回復するには、次の手順に従います。

- ステップ 1 [GRUB] ページが表示されたら、Esc を押してブート メニューに入ります。
- ステップ 2 e を押して編集します。
- ステップ 3 kernel で始まる行に移動し、e を押します。
行の最後に、スペースに続けて数字の 1 を入力します。Enter を押してこの変更を保存します。
- ステップ 4 b を押してブート シーケンスを開始します。
ブート シーケンスの最後にシェル プロンプトが表示されます。



(注) 単一ユーザ モードパスワードを設定する場合は、シェル プロンプトは表示されません。

- ステップ 5 **passwd** コマンドを入力すると、ルート パスワードを変更できます。
- ステップ 6 新しいパスワードを入力して確定します。
- ステップ 7 マシンを再起動します。



(注) ルート パスワードを忘れないようにしてください。パスワードの変更は絶対に必要な場合にだけ行ってください。

モビリティ サービス エンジン データのバックアップおよび復元

ここでは、モビリティ サービス エンジン データのバックアップおよび復元方法について説明します。また、自動バックアップを有効にする方法についても説明します。

この項では、次のトピックを扱います。

- 「ガイドラインと制限事項」(P.11-3)
- 「モビリティ サービス エンジンの履歴データのバックアップ」(P.11-3)
- 「モビリティ サービス エンジンの履歴データの復元」(P.11-3)
- 「ロケーション データの自動バックアップの有効化」(P.11-4)

ガイドラインと制限事項

- バックアップは、NCS のインストール時に指定した FTP ディレクトリに保管されます。
- 他の NCS ページで他のモビリティ サービス エンジン操作を実行しながら、バックアップ プロセスをバックグラウンドで実行できます。

モビリティ サービス エンジンの履歴データのバックアップ

NCS には、モビリティ サービス エンジン データをバックアップする機能があります。モビリティ サービス エンジン データをバックアップするには、次の手順に従います。

- ステップ 1** [Services] > [Mobility Services] の順に選択します。
- ステップ 2** バックアップするモビリティ サービス エンジンの名前をクリックします。
- ステップ 3** [System] > [Maintenance] の順に選択します。
- ステップ 4** [Backup] をクリックします。
- ステップ 5** バックアップの名前を入力します。
- ステップ 6** [Submit] をクリックし、NCS が実行されているサーバのハード ドライブに履歴データをバックアップします。

バックアップの処理中に、バックアップのステータスをこのページに表示できます。バックアップ プロセス中に、このページには 3 つの項目が表示されます。(1) [Last Status] テキスト ボックスには、バックアップのステータスを示すメッセージが表示され、(2) [Progress] テキスト ボックスには、バックアップの完了率が表示され、(3) [Started at] テキスト ボックスには、バックアップの開始日時が表示されます。



(注) 他の NCS ページで他のモビリティ サービス エンジン操作を実行しながら、バックアップ プロセスをバックグラウンドで実行できます。



(注) バックアップは、NCS のインストール時に指定した FTP ディレクトリに保管されます。

モビリティ サービス エンジンの履歴データの復元

(バックアップからの) 履歴データに NCS を使用できます。モビリティ サービス エンジン データを復元するには、次の手順に従います。

- ステップ 1** [Services] > [Mobility Services] の順に選択します。
- ステップ 2** 復元するモビリティ サービス エンジンの名前をクリックします。
- ステップ 3** [System] > [Maintenance] の順に選択します。
- ステップ 4** [Restore] をクリックします。
- ステップ 5** ドロップダウン リストから、復元するファイルを選択します。

ステップ 6 モビリティ サービス エンジンからすべてのサービス割り当てを永久に削除するには、[Delete synchronized service assignments] チェックボックスをオンにします。

このオプションは、ネットワーク設計、有線スイッチ、コントローラ、およびイベント定義に適用されます。既存のロケーション履歴データは維持されますが、今後ロケーション計算を実行するときには手動サービス割り当てを使用する必要があります。

ステップ 7 [Submit] をクリックして復元プロセスを開始します。

ステップ 8 [OK] をクリックし、Cisco NCS Server のハード ドライブからデータを復元することを確定します。復元が完了すると、NCS にそのことを示すメッセージが表示されます。



(注) 復元プロセスの実行中に、他のモビリティ サービス エンジン操作を実行しないでください。

ロケーション データの自動バックアップの有効化

ロケーション データの自動バックアップを定期的に行うように NCS を設定できます。

モビリティ サービス エンジンのロケーション データの自動バックアップを有効にするには、次の手順に従います。

ステップ 1 [Administration] > [Background Tasks] の順に選択します。

ステップ 2 [Mobility Service Backup] チェックボックスをオンにします。

ステップ 3 [Select a command] ドロップダウン リストから、[Enable Task] を選択し、[Go] をクリックします。バックアップは、NCS のインストール時に指定した FTP ディレクトリに保管されます。

モビリティ サービス エンジンへのソフトウェアのダウンロード

ソフトウェアをモビリティ サービス エンジンにダウンロードするには、次の手順に従います。

ステップ 1 アプリケーション コードのダウンロードに使用する Cisco NCS Server または外部 FTP サーバから、モビリティ サービス エンジンに対して ping を実行できることを確認します。

ステップ 2 [Services] > [Mobility Services Engine] の順に選択します。

ステップ 3 ソフトウェアをダウンロードするモビリティ サービス エンジンの名前をクリックします。

ステップ 4 左側のサイドバーのメニューから、[System] > [Maintenance] > [Download Software] の順に選択します。

ステップ 5 ソフトウェアをダウンロードするには、次のいずれかを実行します。

- NCS ディレクトリにリストされているソフトウェアをダウンロードするには、[Select from uploaded images to transfer into the Server] オプション ボタンを選択します。ドロップダウン リストからバイナリ イメージを選択します。

NCS により、バイナリ イメージが NCS のインストール時に指定した FTP サーバ ディレクトリにダウンロードされます。

- ローカルまたはネットワーク経由で使用可能なダウンロード済みソフトウェアを使用するには、[Browse a new software image to transfer into the Server] オプション ボタンを選択し、[Choose File] をクリックします。ファイルを見つけ、[Open] をクリックします。

- ステップ 6** [Download] をクリックし、ソフトウェアをモビリティ サービス エンジンの `/opt/installers` ディレクトリにダウンロードします。
- ステップ 7** イメージがモビリティ サービス エンジンに転送されたら、モビリティ サービス エンジンのコマンドライン インターフェイスにログインします。
- ステップ 8** `./bin mse image` コマンドを入力して、`/opt/installers` ディレクトリからインストーラ イメージを実行します。これによりソフトウェアがインストールされます。
- ステップ 9** ソフトウェアを実行するには、`/etc/init.d/msed start` コマンドを入力します。



(注) ソフトウェアを停止するには、`/etc/init.d/msed stop` コマンドを入力し、ステータスをチェックするには、`/etc/init.d/msed status` コマンドを入力します。

ソフトウェアの手動ダウンロード

NCS を使用してモビリティ サービス エンジン ソフトウェアを自動的に更新しない場合、次の手順に従い、ローカル（コンソール）またはリモート（SSH）接続を使用してソフトウェアを手動でアップグレードします。

- ステップ 1** 新しいモビリティ サービス エンジン イメージをハード ドライブに転送します。
- `root` としてログインし、バイナリ設定を使用して外部 FTP サーバのルート ディレクトリからイメージを送信します。リリース ノート形式は `CISCO-MSE-L-K9-x-x-x-x-64bit.bin.gz` のようになり、リリースごとに変更されます。



(注) この時点では、モビリティ サービス エンジン イメージは圧縮されています。



(注) FTP サーバのデフォルト ログイン名は `ftp-user` です。

入力は、次の例のようになります。

```
# cd /opt/installers
# ftp <FTP Server IP address>
Name: <login>
Password: <password>
binary
get CISCO-MSE-L-K9-x-x-x-x-64bit.bin.gz
<CTRL-Z>
#
```

- イメージ (`CISCO-MSE-L-K9-x-x-x-x-64bit.bin.gz`) がモビリティ サービス エンジンの `/opt/installers` ディレクトリにあることを確認します。
- イメージ ファイルを圧縮解除（解凍）するには、次のコマンドを入力します。

gunzip CISCO-MSE-L-K9-x-x-x-x-64bit.bin.gz

圧縮解除すると、bin ファイルが生成されます。

- d. CISCO-MSE-L-K9-x-x-x-x-64bit.bin.gz ファイルにルート ユーザの実行権限があることを確認します。ない場合は、次のコマンドを入力します。

```
chmod 755 CISCO-MSE-L-K9-x-x-x-x.bin.
```

ステップ 2 モビリティ サービス エンジンを手動で停止します。

ステップ 3 root としてログインし、次のコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/msed stop.
```

ステップ 4 新しいモビリティ サービス エンジン イメージをインストールするには、次のコマンドを入力します。

```
/opt/installers/CISCO-MSE-L-K9-x-x-x-x.bin.
```

ステップ 5 次のコマンドを入力して、新しいモビリティ サービス エンジン ソフトウェアを開始します。

```
/etc/init.d/msed start
```

**注意**

スクリプト ファイルをアンインストールする次の手順を実行するように指示された場合に限り、この手順を実行します。ファイルを削除すると、履歴データが不必要に消去されます。

ステップ 6 次のコマンドを入力して、モビリティ サービス エンジンのスクリプト ファイルをアンインストールします。

```
/opt/mse/uninstall
```

NTP サーバの設定

NTP サーバを設定して、モビリティ サービス エンジンの時刻と日付を設定できます。

**(注)**

- モビリティ サービス エンジンの自動インストール スクリプトの一環として、NTP をイネーブルにし、NTP サーバ IP アドレスを入力するように求めるプロンプトが自動的に表示されます。自動インストール スクリプトの詳細については、次の URL にある『Cisco 3350 Mobility Services Engine Getting Started Guide』または『Cisco 3310 Mobility Services Engine Getting Started Guide』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps9742/prod_installation_guides_list.html

- モビリティ サービス エンジンのインストール後に NTP サーバのインストールを追加または変更する必要がある場合、自動インストール スクリプトを再実行します。スクリプトをタブで指定して他の値を調整せずに NTP サーバを設定できます。

**(注)**

NTP サーバの設定の詳細については、Linux の設定ガイドを参照してください。

システムのリセット

モビリティ サービス エンジン ハードウェアの再起動またはシャットダウンについては、「[システムの再起動またはシャットダウン](#)」(P.6-10) を参照してください。

コンフィギュレーション ファイルの消去

コンフィギュレーション ファイルの消去については、「[システム データベースの消去](#)」(P.6-10) を参照してください。

